

■常呂町の敬老会に関する年表

() は常呂図書館が記載

和暦	西暦	月日	内 容
大正 1 4 年	1923	3月	初めての敬老会催す、以後現在まで継続（「岐阜地区開基百年記念誌 闘壘」） * その後も処女会や婦人会と共催しながら続き、戦後も絶えることなく、昭和 6 0 年代の岐阜区主催になるまで催してきた。敬老会は現在（平成 9 年）、区・婦人部・青年部の共催で行われているが、この美風は永く続いていくことだろう。 （「岐阜地区開基百年記念誌 闘壘」）
昭和 2 1 年	1946	4月	「青年団」の項目に、「富丘青年団集会再開…馬糧牧草刈り、敬老会再開、巖地神社秋季祭典実施」等の行事実施の記載あり（「富丘百年史 拓頌」）
昭和 2 2 年	1947	4月20日	豊川青年団設立（昭和 2 1 年 5 月 1 3 日）し、「…男女青年合同で敬老会を開催し…老人の送迎は、団員が自転車やりやカーで真心こめて行った」 （「イワケシュ郷土史」）
昭和 2 9 年	1954	4月29日	満 7 0 歳以上高齢者、常呂町敬老会：議事堂（部落、大島・東浜除く） （当直日誌）
昭和 3 1 年	1956	4月	「常呂町青年団体協議会各団体構成運営集」に、加盟団体（豊川・共立・日吉・福山・土佐・岐阜・富丘）の記載があり、内、岐阜・豊川・日吉・共立・富丘の活動計画には「敬老会」が入っている。
昭和 3 8 年	1963	11月15日	開基 8 0 周年記念、老人福祉法制定を記念して第 1 回合同金婚式開催（中央公民館 2 0 組）（広報ところ） * 昭和 3 8 年度決算書に、福祉課所管事項として「敬老事業補助費」の記載有り（上記 2 つの資料には「敬老会」の文字はなし） * 「常呂町史」では、「昭和 3 8 年開基 8 0 周年記念事業の一環として合同金婚式が行われて以来、毎年 9 月 1 5 日老人の日に町と婦人会の共催によって、合同金婚式と 7 0 歳以上の老人を招き、敬老会が行われており、各部落においては婦人会・青年団等が主体となって敬老会が行われ…」と記載。 （「昭和 3 8 年」を含むのかどうかは不明）
昭和 4 0 年	1965		* 昭和 4 0 年度決算報告書に、福祉課所管事項の老人福祉として「敬老会 各地域の自主活動を奨励」の項目がある （「各地域」がすべての区を指すのかは不明だが、岐阜・豊川・共立・日吉・富丘

			の5地域以上の区で行われていることを窺わせる)) *以降、昭和50年度まで確認したが、決算書に敬老会の記載はなし。
昭和41年	1966	9月15日	*「広報ところ」9月号に「敬老の日が国民の祝祭日と決められた最初の年で、この日、第4回の合同金婚式が敬老会と併せ、中央公民館で実施」の記載。 *翌42年の広報では「市街地敬老会」の文字がある (昭和41年が、市街地区の合同敬老会の始まり)
昭和47年	1972	9月15日	(のぞみの園) 敬老会の実施。「鯨の安さん」ボランティア寿司 (のぞみの園開園20周年記念誌)
昭和49年	1974		*富丘区「昭和44年から豊川区の青年が加わり…敬老会…実施…敬老会の主催が青年部から婦人部になる」(「富丘百年史 拓頌」)
昭和50年	1975	4月8日	岐阜青年研修所改装並びに50年敬老会、岐阜老人クラブ創立10周年記念式典 (岐阜老人クラブ50周年誌)
昭和52年	1977	3月26日	*「広報ところ」4月号に「日吉地区の老人39人を招いて敬老会が開かれました…日吉の町内が…毎年開いている…」
昭和53年	1978	2月12日	富丘老人クラブ創立10周年記念祝賀会と敬老会開催(富丘百年史)
昭和55年	1980	3月8日	共立会館で地区の60歳以上のお年寄りを招いて敬老会が開かれた(広報ところ)
昭和56年	1981	3月	共立地区の60歳以上のお年寄りを招いて、新装なった共立会館で敬老会が行われた(広報ところ)

- *「豊川区開基百年記念誌 ふるさと」(平成7年11月26日)発行から
…始められた敬老会は、戦後の混迷した世相から活力ある地域復興を願う、地区住民の自立的な事業として、戦前の良き伝統を継承する中で定着した。
豊川区においても、戦前より区を始め、婦人部、青年部が中心となり、公民館を会場とし、70歳以上の老人を招待して…祝辞などのセレモニーのあと、婦人部の心あたたまる料理を味わいながら…親睦…。
昭和60年ころより、地区の事情を考慮し、敬老週間にこだわらず、農閑期を利用して実施する区が増え、豊川区においても、農閑期である2月20日を指定日として実施…現在(平成7年)にいたっている。
- *「豊川区においても戦前より」とその前の文章から、岐阜・富丘区以外の地区でも戦前から敬老会を実施していた可能性がある。
- *昭和60年頃から農閑期に実施するようになったとあるが、すでに昭和50年代から岐阜・日吉・富丘・共立では農閑期に実施しているので、この流れが農村部では浸透していたと思われる。

■敬老会についてのまとめ

1. 常呂における敬老会の始まりは、記録されている限りは、岐阜地区の大正14年3月。
2. 岐阜・富丘・豊川の各記念誌に記載があるとおり、「敬老会」は戦前から農村部の地区ごとに行われていた。
また、その主体は青年団だった。資料はないが、戦前から行っていた地域は他にもある可能性がある。
3. 昭和29年4月29日実施の市街地敬老会（70歳以上）の内容は不明。この前後数年間の同一日（天皇誕生日）の「当直日誌」には、「敬老会」の記載はない。この年だけの催しだった可能性があるが、市街地の敬老会としては最初。
4. 昭和31年度の常呂町青年団体協議会の資料から、戦前から継続している「岐阜・豊川・富丘」の他に、「日吉・共立」でもこの当時青年団が主催行事として敬老会を行っていたことがわかる。
共通するのは、地域の規模が大きく、開拓の歴史の厚みがあり、青年団活動の活発な地域であること。
地域の記念誌がない漁村部（栄浦・豊浜）の実態は、ここでは不明。
5. 「常呂町史」ではあいまいだが、昭和40年の決算書に「敬老会が各地域ごとに自主的に行うことを奨励している」ことと、昭和41年、42年の広報に敬老会・市街地敬老会の記事があるので、昭和41年以降は、「市街地は合同」で、その他の地域は「各地域ごと」に敬老会を実施していたと考えられる。
6. 農村地域で行う敬老会運営の中心は青年団であったが、昭和40年代中頃から地域青年団の団員減少が続き、それに伴い敬老会を運営する形態が区中心に変わっていった。また、50年代には、それぞれの地域の実情に合わせた開催日を決めるようになった。